

近世歐羅巴殖民史(二)

## 第一章 南米大陸に於けるスペイン植民地の喪失

### 第一節 植民地の不平と独立

第十八世紀末葉スペイン植民地には、到るところに鬱勃たる不平が漲つて居た。如何に取締や検閲を嚴重にしたとはいへ、南米諸都市の間にマドリッドの弊政、西班牙の国威失墜が知れ渡らぬ道理はない。南米生れの白人並に混血人は、一切の官職から除外せらるることを憤り、商人は各種の取締を厭ひ、自由と独立を求むる氣勢が漸く旺んになった。北米合衆国の独立並に仏蘭西革命が、火に油を注げることは言ふまでもない。而して此の風潮は幾多の民衆指導者を各地に生んだが、その最も名高きはミランダ Miranda である。彼は一七五四年カラカス Caracas に生れ、曾て将校としてスペインに、後に北米に勤務したが、本国政府の植民地統治に憤慨し、英国、仏国、露国を巡歴して其の非を鳴らした。英国宰相ピット、彼の言に動かされてスペイン植民地攻撃を企て、既に司令官までも任命したが、一七九二年英、西両国の間には平和成りしを以て此の計画は実現を見なかつた。於是ミランダはフランスに赴き、其他の南米より来れる同志と共に、仏国の援助を求めんとしたが、西・仏両国がバーゼルに平和条約を結んだので、是亦水泡に帰した。而もミランダを中心とする此等の志士は、度々の蹉跌にも沮喪せず、秘密結社 Gran Reunion Americana をロンドンに結成し、熱心に活動を続けた。

**ゴドイの提議** 当時のスペインは実に憐むべき状態に在つた。その艦隊はトラファルガーに撃滅せられ、アメ

リカより来る船舶は掠奪せられ、既にサンドミンゴ、ルイジアナ、トリニダッドを奪はれた。かかる情勢の下に米國に漲る獨立運動を弾圧し來れるカール四世の宰相ゴドイは、先年のアラランダ宰相の意見を復活せしめ、植民地を五個の世襲太守國に改造すべきを提議した。若し此の提議容れられ、獨立運動に先手を打つたならば、或は植民地を失はずに済んだかも知れない。乍併以前 場合と同じく、スペイン政府は此の政策を断行する覚悟と勇氣とを欠いた。

**英國のアルヘンチナ占領** かかる間にミランダは、恰もケープタウンを占領せる相識の提督ポファム Sir Home Popham を訪ひて、アルヘンチナ征服の容易なるを説き、遂に提督を動かして一八〇六年南米遠征を独断専行せしむるに至つた。英軍は何等の抵抗を受けず、六月廿七日、アルヘンチナ首府を占領し太守は奥地に逃亡した。英軍はアルヘンチナを以て英國植民地たらしむる意圖を示した。而もそはミランダの意志に非ずまた植民地の望む所でない。彼等の欲する所は獨立にして主人の更換ではない。かくてアヘンチナ人はリニエ Jacques Liniers の指揮の下に英軍に抗した。彼はアルヘンチナ生れの仏人にして長く將校として此地に勤務せる者である。英國は援軍を増派したけれど、リニエの勇敢なる防禦により、翌一八〇七年七月遂に此地を撤退するに至つた。

**リニエ太守となる** アルヘンチナはかくして救はれた。スペインはリニエの功を賞して之を太守に任じた。植民地が本國の援助なくして強大なる敵軍を撃退したことは、深刻なる印象を南米に与へた。ミランダは共和制を基礎とせる南米諸國の獨立案を立て英國と相結んで其の實現を期すべきを宣伝した。乍併アルヘンチナに於ては、彼の宣伝よりも一層有効に獨立を希望せしめた刺戟があつた。それは英國が約一年間アルヘンチナを占領せる間に、英國貨物の貿易によつて利益を得たるアルヘンチナ人が、此の利益を失ふまじと覺悟せることである。彼等

は最早スペインの支配を眼中に置かず、密に太守を廃せんと企てた。而して未だ実行に着手せざるに先ち、本国政局の混沌が伝へられた。カール四世と宰相ゴドイは斥けられて、フェルナンド七世之に代つた。幾くもなく此王も廃せられて、ナポレオンの弟ヨゼフ、西班牙王の位に即いた。

**アルヘンチナの不穩** 此報到るや、仏人にしてナポレオンの崇拜者たるリニエは、心中ヨゼフを承認せんことを欲したけれど、植民地におけるフランス憎悪の感情強烈なりしを以て、フェルナンド廃王に対する忠誠を表明した。而も此間に於ける若干の曖昧なる態度が、政敵の乗ずる所となり、一八〇九年遂に政權を Cisneros 將軍に渡して引退せざるを得なくなつた。かくてスペインの支配は再び確立せられたかに見えた。新太守は貿易に対する制限を復活せんとした。而も牧畜業者並に農場経営者は極力之に反対した。太守は一は此の反対に辟易し、また一には関税増収によつて歳入不足を補ふ必要から、遂に貿易の自由を声明した。こは貿易を独占し來れる西班牙商人を憤らしめたが、米國生れの西班牙人は大に之を歎び、且つ之によつて勢力を増した。

**其他の諸地方に於ける不安** 一八〇八年より九年に亘りて同様の不穩がスペイン植民地の到るところに勃発した。上ペルー(ポリヴィア)の首府 Charcas (今日の Chuquisaca) に於ける暴動、並にキトに於ける暴動は容易に鎮定された。チリに於ては一群の獨立運動者が熱心に革命思想を鼓吹した。ヴェネズエラに於ては、一時獨立運動者の仮政府が組織されかけたが、是亦抑えられた。

**メキシコの状態** 年々三億の歳入あり其の一億八千万 *Reales* を王室に送るアメリカ第一の重要植民地メキシコも、不安の兆候は次第に顯著になつて來た。メキシコではクレオーレの數も最も多く、印度人も他に比して開明の域に進んで居たから、西班牙に対する不平は根強かつたけれど、富有なるクレオーレが不穩を恐れたのと、

一般民衆の無関心とが、暫くスペイン勢力を継続させて居た。ナポレオンの弟ヨゼフ西班牙王となれる報到るや時の太守は仮政府を立てんとしたが、西班牙人は之を怒つて太守を捕へ之を本国に送還した。此時西班牙人と独立運動者との間に將に戦端開かれんとしたが、エルツビシヨ―太守に任せられ、双方の極端家を処罰して事なきを得た。而も西班牙は之を怒り、彼の太守を罷免した。

**スペインの窮状と暴動再発** 此時に当り一方本国の状態を見れば、仏軍はアンダルシアに入り、セヴィラの中  
央國務會議は逃亡し、主權は摂政會議の手に移り、旧スペインは僅にレオン島に余喘を保つ窮状であつた。此報一たび伝はるや、先づカラカスに、次で新グラナダに、次でキトに、次でアルヘンチナに、独立運動が再び実行期に入つた。而も大勢に抗して敢然武力鎮圧を試みたのはペルー太守アバスカル *Abascal* である。彼の努力により一八一六年には、さしも旺盛なりし独立運動も、南米の南部では僅にアルヘンチナが尚ほ独立を維持せるのみで、其他は再び西班牙に臣従することとなつた。而して之が其他にも大に影響し、ヴェネズエラ、新グラナダ及びメキシコに於ける革命もまた抑圧された。ヴェネズエラの革命に破れたミランダは一八一二年囚はれて西班牙に送られ、一八一六年獄死した。彼の後を継いで一時勢を張れるボリヴァル *Bolívar* も志を遂げなかつた。メキシコに於けるヒダルゴ *Don Miguel Hidalgo* の蹶起も竜頭蛇尾に終つた。

此時に当りスペインは、其のアメリカ植民地を再び完全に確保せんとし、一万三千の兵をモリロ *Morillo* 將軍に与へてアメリカに向はしめた。遠征軍は一八一五年四月ヴェネズエラに着し、諸処に愛國運動者を屠りて勝利の歩みを進め、独りヴェネズエラのみならず、新グラナダ及びキトの革命運動をも鎮圧した。若し彼にして其の勢力下に置き得たる植民地をその正当なる要求に応じて改革し、民心をスペインに帰向せしむるに努めたならば

南米の西北部に於ける革命は終熄したかも知れなかつた。然るにモリロが、愛国運動者に加へたる余りにも残酷なる処置、人民に対して行へる極度の苛斂誅求は、従来心をスペインに寄せたる者をも憤激せしめた。

ボリヴァル 此時に当り、曾て独立運動蹉跌してジャマイカに亡命中なりしボリヴァルが、再び革命指導者として現はれた。彼はハイチの富有なる商人ブリオン Brion の援助によつて遠征の費用を得、一八一六年五月末マルガリタ Margarita 島よりヴェネズエラに上陸したが、一旦ハイチに帰つて年末に再びパルセロナに帰り、此処よりカラカス Caracas を襲はんとした。

コロムビア建國 モリロ之を聞き、五千乃至六千の兵を率ゐて之が征討に向つた。ボリヴァルは衆寡敵し難きを知り、同じく独立運動の領袖ピアル Piar の言に聴きオリノコ河の低地に拠つて勢力を養つた。同時に西ヴェネズエラに於ても愛国者パエズ Paez が同志を糾合して蹶起した。一八一八年初頭ボリヴァル及びパエズ・モリロの軍と会戦したが、ボリヴァルは敗れてアングスツラ Angostura に逃げた。彼は此地に於て再挙の計画を樹て一八一九年七月末、大なる艱難の後に新グラナダに入り、モリロの軍を破つて八月十日其の首府に入つた。彼はヴェネズエラと新グラナダとを併せて『コロムビア合衆国』を建立して独立を声明した。首府は彼の名に因みてボリヴァルと命名された。時にモリロは尚ほ一万二千の兵を擁して沿岸に至り、若し西班牙より援軍来らば、コロムビアの前途逆睹し難かつたが、西班牙本国に革命起りて其の事なかつた。

アルヘンチナ 先是アルヘンチナは一八一三年一月卅一日最初の議會を召集し、その完全なる独立を宣言し、翌一四年六月には予て交戦中なりしモンテヴィデオを打破つた。而も此の勝利はブエノスアイレスに対する諸州の嫉妬を激発して遂に内乱となつた。而も一方ブラジルの侵略を恐れ、他方チリに於ける独立軍の勝利に鼓舞せ

られて、一八一七年再び協力一致するに至つた。

サン・マルチン チリに於て勝利を得たるはサン・マルチン José de San Martín である。彼はアメリカに生れたる西班牙人にして本国の軍隊に入りて大佐となり、一八一二年アルヘンチナに勤務してクヨウ Cuyo 州を治めて居た。彼は此處で独力四千の兵を遣ひチリを討つ機会を待つて居た。彼は西班牙軍がヴェネズエラ征討に全力を注げる虚に乗じ、一七年初頭アンデス山の險路を越えてチリに入り、愛国者の熱狂的歓迎を受けて二月十七日サンティヤゴ Santiago の前面に陣せる西班牙軍と戦ひて之を撃破し、二日の後首府に入つた。三月西班牙軍また来りて勝利を得たが、四月五日再び大敗した。サン・マルチンは若干の英国船を買入れ、西班牙船を掃蕩した。

チリ共和国 かく海陸共に西班牙軍を撃退して今やチリ共和国の建立となつた。サン・マルチンはアルヘンチナと協力してペルーを攻撃する計画であつたが、此の兩國の間に紛糾を生じたので、実行不可能となつた。ペルーの勢力はチリ一國よりは遙に強大であつたので革命は再び鎮圧される危険があつた。

一八一九年末 一八一九年末の西班牙植民地の大勢を見るに、メキシコは表面安定の姿である。ヴェネズエラ及新グラナタはボリヴァルの掌中に在り、且つアルヘンチナ及チリは独立したりとは言へ、モリロの軍尚ほヴェネズエラの沿岸に在り、ペルーの勢力は隣國を圧倒するに足りた。されば西班牙王フェルナンド七世は其の植民地の喪失などは夢想だもせず却つて之を確保すべく決心した。もと王は歐羅巴列強の一國の調停により、公正善良なる政治の実現を南米人に保証して問題を平和裡に解決せんと考へて居たが、今や此の意図を一擲し、一八一九年空前に大規模の遠征軍を派遣し、武力を以て圧倒するの決心を固めたのである。此年初、約二万二千人の

軍兵がカディズに陣した。將校は不払俸給を一階級の昇進と相殺したので、あり余る程多かつたが、兵卒は足りなかつた。それは一八一一年より一八年までに南米に送られたる兵卒の運命並に叛軍勝利の報道が、人をして此の遠征を嫌悪せしめたるが故である。かくて此の元氣なく不平のみ多き兵卒の間に乗船を忌避するための紛糾が屢々繰返され、遂に翌二〇年正月に至りて全軍の叛乱を惹起し、遠征は不能となり、独立軍は勝利を約束されることになつた。

此の遠征計画は独立軍を心配させて居ただけその破滅はそれだけ喜ばれた。彼等は勇氣百倍して南米に於ける西班牙の残存勢力と戦つた。

**コロムビア** まづコロムビアに於ては、ボリヴァルが、モリロの軍を攻撃して休戦を乞はしめ、一八二一年六月二〇日、モリロ西班牙に帰りて後西班牙軍を率ゐたるラトルレ *Latour* とカラボボ *Carabobo* 附近に会戦して大勝した。一八二二年にはキトをも征服し、二三年には蘭、英より買入れし船によつて西班牙の來襲に備へ、海岸諸港をも占領した。かくてコロムビアはペルー北境よりオリノコ河口に至る領土を獲得した。

**ペルー** 乍併ペルーが尚ほ確實に西班牙領として存続する限り、新独立諸国は決して枕を高くすることが出来ぬ。それ故にサン・マルチン、ボリヴァル、其他の志士は夙くよりペルー攻撃を志して居た。一八二〇年サン・マルチンは四千の兵を率ゐてリマの南方に上陸した。彼はペルーの愛国者が彼に呼応すべきを期待したが、それは裏切られた。而もペルー太守ペンズエラ *Penzuela* も進んで之を討たなかつたので両軍對峙の姿となり、其の間サン・マルチンの宣伝と太守の無能とが両々相待ちて人民の不平を買ひ、太守は斥けられ、西班牙軍は首府を保持し難きに至り、一八二一年七月初旬サン・マルチン遂にリマに入りてペルー独立を宣言し、自ら最高權力を握



つた。時に西班牙軍はカラオ *Callao* 港及び内部諸州を勢力下に置いて居たが、若し有効なる追撃を受けたならば、遂に支へることを得なかつたであろう。然るにサン・マルチンは事を誤つた。彼はペルーの主権者として乱暴に其の権力を振廻すことにのみ忙しかつた。彼は火酒と阿片と女とに健康を害し、周囲は小人のみであり、その政治は弊害百出であつた。殊に彼が歳入不足を補ふために苛斂誅求を行なつた事が、国民の大なる反感を招いた。一八二二年、彼自身も地位の不安を自覚し、此年七月助力をボリヴァルに求むべく自らグアヤキル *Guayaquil* に彼を訪ふべく首府を出立した。然るに其の留守中リマ市会は彼を排斥して同じく援助をボリヴァルに乞ふた。サン・マルチン之を知りボリヴァルに依るの不可能なるを知り、自ら職を去りて九月チリに歸つた。サン・マルチン去りて後、ペルーは三人の議員より成る國務會議が政局に當つたが、西班牙軍再び首府を進撃するの報に接しリヴァ・アゲロ *Riva Agüero* 大佐に全権を委ねて急に応じた。然るにアゲロが独立軍の主力を南方に派して西班牙軍と戦はんとせる時、西班牙軍の一將軍カンテラック *Canterac*、リマの虚をついて之を占領した。独立軍は南方に於ても敗戦した。アゲロは其の地位を遂はれ、死刑に処せられた。其時にボリヴァルがまた出現してリマを奪回した。二四年二月リマは再びカンテラック將軍によつて占領せられ、ボリヴァルはグアヤキルに退却したが、此頃より西班牙軍の内部に憲政派と専制君主派との軋轢生じて力弱り、ボリヴァルは二四年十二月以来西班牙軍に対して連勝し、二六年初頭には西班牙の最後の根拠地たるチロエ *Chiloé* 島をもチリの手に収め、以てペルーを西班牙から解放した。

メキシコ 一八二〇年夏、スペイン革命政府は、一八一二年の憲法を更めてメキシコに於て公布すべきことを命じた。太守アポダカ *Apodaca* を初め、高等法院、並に親西派は之を欲しなかつた。然るにクレオーレ及び自

由主義者は一斉に起つて其の実施を迫り、太守の逡巡するや自ら憲法を宣言し、言論の自由と各自治体並に国会議員の選挙を行はんとした。太守及其の一派は大に怒り憲法の廃止を決心した。而も之を実行するに当りて打たんとせし芝居が思ひがけぬ結果を生んだ。太守は、もと独立運動者にして今は将校として軍隊に勤務せるイトゥアルビデ *Turbide* なる者を軍隊の長官とし、彼をして軍隊の力を藉りて憲法廃止を太守に迫らしめんとした。然るにイトゥアルビデ一度び軍隊を掌裡に握るや、直ちに独立運動者と気脈を通じ一八二一年三月廿四日太守との談合とは反対に、メキシコを独立せる立憲君主国たらしむべき具体案を声明した。此の提案は各方面の歓迎を受け、首府及びヴェラ・クルズを除いて全国皆な之に賛した。太守は廃せられ、西国議會より派遣せられたる *Don Juan O'Donoju* は一八二二年八月廿四日コルドヴァに於てイトゥアルビデと会見し、西班牙政府の名に於て彼の計画を承認した。此報本国に達するや、議會は其の無効を声明し、二二年初頭列国に向つて、西班牙植民地の独立承認は条約違反なるべき旨を通告した。

**イトゥアルビデ皇帝と其没落** かかる声明はしても西班牙には何の実力もないのでイトゥアルビデは一八二二年五月十八日軍隊の一部と民衆とをして彼が帝位に即くことを請願せしめ、翌日議會をして彼をメキシコ皇帝アウグスチン一世として承認せしめた。彼は一層軍隊を有力にし、厚賞によつて友人を喜ばしめ、豪奢によつて威威を示し、施与によつて新しき味方を得んとしたが、議會は彼を無視したので、之を廃止した。加ふるに北米合衆国は彼を承認せず、コロムビアは彼の顛覆を策するので彼の地位は不安、それが經濟界に影響して非常なる不況を招ぎ、歳入著しく減退した。イトゥアルビデは重税によつて歳入増加を図つたが實に目的を達せざるのみならず、あらゆる方面の敵意を挑発し、此年暮ヴェラ・クルズに起りし暴動が端緒となつて彼は簡単に顛落しメキシコ

から追はれた。其の後メキシコに小党分立して互に相争ひ、諸州皆な独立を宣言する存様となつたが、一八二四年十月に至り、漸くメキシコ合衆国の成立を見、北米合衆国のそれに倣へる憲法が発布された。

## 第二節 英米の独立援助

西班牙領植民地が独立したのは無論愛国者の勇氣と努力によるが、外国の後援最も与つて力ある。英・米両国は経済的利害と政治的理由から当初より独立運動に好意を示した。尤も米国は積極的に出るだけの富も力もなかつた。英国は西班牙と同盟してナポレオンに當つて居たから、政府としては何事も出来ず、唯だ商人をして頻繁に独立軍と往復せしめ、銀行をして借款に應ぜしめ、英人の独立軍に参加するを黙認するに止まつた。但し二十年代に至り西班牙が仏国と接近するに至りて英国政府の態度は初めて積極的になつた。英国は各植民地の商船旗を独立国のそれとして取扱ふことを宣言し、同時に米国もモンローの提案により西班牙植民地の独立を承認した。而して一八二三年十二月議會開会に當りモンローが次の如き所謂モンロー・ドクトリンを声明して、米国に対する欧羅巴の干渉を排せることは、一層彼等の独立を強固にした。即ち『ヨーロッパ列強はアメリカの幸福と平和とを擾すことなくして其の政治組織をアメリカの如何なる部分にも延長すること不可能なり、従つてアメリカは之に対して無関心なるを得ず。アメリカ大陸は今後如何なる欧羅巴国家によつても植民の対象とせらるべからず』。

次で英国も正式に承認

## 第二章 第十九世紀に於けるスペイン植民地

### 第一節 フィリピン

太平洋に於ける西班牙領は第十九世紀に於て殆ど外部からの危険はなかつた。同世紀中葉に於て十二大島、六十小島より成り卅四州に分たれて居た。初めフィリピンの内地は国家が支給する官吏によつて治められるのである。 *Encomenderos* と呼ばれし個人に賃貸されて居た。彼等は自己の借地区の住民から徴収すること、一旦緩急ある場合に兵力を以て植民地政府を援助することを義務として負ふた。固より苛斂誅求を行つたが、他の西班牙領に於けるほど甚しくなかつた。それはフィリピン島では土人を奴隷にすることなかつたのである。この制度は第十九世紀に入りて廃せられ、各州に役所を設け各区にアルカード *Alkaden* を置いて之に司法、行政、軍事上の権力を与へた。然るに彼等はあらゆる身分の者から採用され、理髮師馬丁なども之に任ぜられた。彼等の俸給は一年僅に三百ペソで、之だけでは生活ができないから、政府は彼等に商業を営む権利を与へ、彼等が営むの爲に行ふ搾取に目を閉じた。彼等は自己の管轄区内の商業を独占し土人を強制して其の生産品を定めたる価格で買占め他の入り来るを許さなかつた。一八四四年に至り、アルカードが商業を営むことを禁じたが、俸給は依然旧の如くであつたので、実行は余程後であつた。現在植民地の最高官は総督で、多く高級軍人から選任される。各州には一八八六年から文官知事を置く。植民地は（一八五〇）三四プロヴィンツ及び二陸軍司令官区に分たれ、

之を六九尹ストリクト District に分ち、その二〇は知事の下に、其他は軍司令部の下に在る。

## 第二節 キューバ

西班牙は一八〇一年フランスにルイジアナを譲渡した。ナポレオンは西班牙の面前で直ちに之を二千万法で北米に売つた。西班牙の抗議は後の祭りであつた。ルイジアナ及びハイチより多数の西班牙人がキューバに引上げて新に農場の経営を始めたので、此島は榮えて来た。

**玖馬** 殊に珈琲及甘蔗栽培が盛んになつた。一八〇四年西班牙が仏国と相結んで英国と戦へる時も、英国はアルヘンチナに力を注いで居たので、玖馬は北米船で其の貿易を続け、何等影響を受けなかつた。但しナポレオンが西班牙の旧王朝を顛覆するに及んで、此処にも亦他の場処と同様独立運動が起つたけれど、官憲が之を圧迫した。其後も政治的動揺が多少はあつたけれど、産業の発展に伴ふ経済的問題が玖馬の当面の要務であつた。まことに玖馬の発展は著しく、其の貿易額は一八三六—四〇年平均年額四四、三一九、〇〇〇ペソなりしが、四一年には五一、八五六、〇〇〇ペソとなつた。

**米国の野心** 富有的なテキサスを容易に併合せる米国は、玖馬の富に垂涎した。ワシントン、ニューヨーク、ニューヨークルレアン等には、公然玖馬奪取を標榜する団体が結成され、上院に於ても同様の意見が述べられた。此等の団体に属せる者は概ね南部諸州の農場経営者であつた。彼等は黒奴の入手が次第に困難となり従つて以前の如く農場より利益を挙げ難きに至りしを以て、殊に玖馬に於ける多数の黒奴に着目したのである。一八四一年には実に玖馬の黒奴は四十三万六千を超えた。彼等は米国内に自己の思想を宣伝するに止まらず、玖馬の黒人を煽動

して自家の藁籠に入れんとした。彼等は幾くもなく多くの共鳴者を得たが、その中に玖馬の最大の敵となれる軍人ロベズ Narciso Lopez が居た。既に四九年彼等は遠征隊を玖馬に派し、島内の不平党と呼応して之を征服する計画を樹てた。されど共和党が大統領選挙に勝利を得、彼等の侵略運動に反対したので、ロベズと其の一派は実行を延ばさねばならなかつた。其の間玖馬総督は急を本国に報じて着々防備に努めたので、ロベズは時機を失せんことを怖れ五〇年五月十九日、四百の兵を卒めてハヴァナの東方カルデナス Cardenas 港に上陸し、此町を占領したが、彼を援護せる米船は総督の船に攻撃せられ、且つ土民の呼応の期し難きを知り、再び米国に帰つた。而も此時より玖馬は混乱に投ぜられた。即ち幾くもなくして在紐育革命結社の一領袖キスネロス Gaspar Cisneros が滞留せる Puerto Principe に於てクレオーレンと政府との衝突が起つた。政府は重立ちたる者十六名を拘禁したが、其の一人が逃亡して若干の同志と共に Las Tunas を襲ふた。彼は直ちに鎮定されたが、之に依つてトリニダード Trinidad 市にも暴動が起り、次でロベズが再び現はれた。五一年八月彼は五百の兵を率めてモリロ Morillo に上陸し、一部を此処に止めて自ら内地に進軍したが、此度も土民呼応せず、戦敗れて彼は囚はれた。彼は死刑に処せられ、彼と行動を共にせる米人は即座に海賊として銃殺された。而も此事は甚だしく米人の憤激を買ひニューオールレアンにては西国旗を破り、数千の民衆が遠征再挙を叫んだ。西班牙は之に恐れて捕へたる残余の米人を釈放した。英、仏両国の嚴重なる抗議を受け、米国大統領はロベズの挙を不純なる冒険として公然之を否認した。

**收拾策** 時の玖馬総督は玖馬を長く西班牙領たらしむるに必要な改革案を提出したが、政府は却つて彼を本国に召還した。其後五四年の革命後、彼は再び総督として兼任し、種々改革する処あつたので、玖馬は、空前に

繁栄したが、そのために投機と泡沫会社の発生を促し、多くの破産者を見た。多数の黒奴が主人とパンとを失ひて匪賊と化した。幸ひにこの混乱も常態に復し、玖馬は再び繁栄の途を歩んだ。当時玖馬の求むる所はクレオリと西班牙との差別撤廃であつて、独立ではなかつた。それ故玖馬はモロッコに於ける西班牙の戦争を助けるために、一億二千五百万レアーレンをマドリッドに送つた程であつた。乍併西班牙政府は従前と同じく、番に好機を利用することを知らざりしのみならず、却て之に乗じて玖馬に過重なる負担を課したので、西班牙に対する島民の反感を煽つた。即ち西班牙は其のメキシコ遠征費六千七百万レアーレン、並にサンドミンゴに対する全く無益なる遠征費四億レアーレンを玖馬に支払はせたのである。之が玖馬の財政並に經濟を破綻に導き、不平の聲は頓に高まつた。一八六八年の西班牙の革命、イサベラ女王の廃位は遂に玖馬の叛乱を促した。

**叛乱** 即ち此年暮先づ Bayamo に叛乱起りて独立を唱へてより所在之に応じ、且つ南米諸国は叛徒を交戦国と承認し爾来長年に亘る内乱が続いた。一八六八年より七六年まで、西班牙は前後十四万五千の兵を玖馬に送つたが、遂に之を剿滅し得なかつた。玖馬の窮状は一八七〇年に勃発せる黒奴の叛乱によつて一層甚だしくなつた。爾来黒奴は概ね農場を去り、而も其の補充は至難であつた。ユカタンより印甸人を、並に支那人を輸入せんとしたが、一は西班牙政府より、他は支那政府より禁止された。一八七〇年に三十六万三千人を算せる黒奴が、七六年には僅に十九万九千人となつた。農場主は皆な労働不足に苦しんだ。一八七八年春に至り、西班牙政府は、玖馬に本国のプロヴィンツと同等の権利と地位とを与へるといふ条件の下に漸く叛徒と平和を結んだ。而も此の平和は期待せるものを将来しなかつた。長期に亘りし叛乱は余りに玖馬を疲弊させた。玖馬は自立することも出来ず、西班牙の無力なることを知れるクレオリは、再び目を合衆国に向けた。そこでは Bonachea 將軍の率ゆ

る一団が、政馬の独立を計画して居た。彼によつて組織された遠征隊が一八八三年一クレオーレ Agüero に率ゐられて来島し、 Puerto Principe 附近に拠つて永く此地方を不安にした。而も西班牙は何等根本的改革を断行するの意図なく、逆にまた九五年の叛乱を招いた。

主要産物は煙草、珈琲、砂糖。

一八七〇年西班牙の一県となる。

### 第三節 西アフリカに於ける若干の島

(Fernando Po, Annobon)

## 第三章 オランダの東洋に於ける植民地の発展

### 第一節 西印度会社の解散

ニュー・ネザールランドは、一六二三年最初の根拠地が置かれてこのかた、極めて重要な植民地となつた。一六二九年急速に移住を促進するため、一種の封建制度ともいふべきパトロン制度を設置せることが、時を経るに従つて弊害を生みたりとは言へ、農耕並に貿易は確実に発展した。必需品に対する高税、役員の秕政と不正、近